

呉市総合計画審議会第1回会議 「目指すべき姿」に関する意見・提案一覧

番号	意見・提案
1	<p><b>P 1：基本的考え方について：</b>            策定方針の下からの行4行目：「市民にわかりやすい9つの分野に分類し」の後の「政策ごとの目指す姿」のところは、「分野ごとの目指す姿」ではないか。            5-6行目：「基本計画においては、「災害に強い強靱なまちづくり」, 「市民と企業等との連携」など9つの分野を横断する視点」→「基本計画においては、9つの分野を横断する「災害に強い強靱なまちづくり」, 「市民と企業等との連携」に「新型コロナとの共存」, 「SDGs」, 「Society5.0」を加えた視点」, とすべきでは。            7行目：「これらの視点を持って政策を進めていく形に変更します」→「これらの視点で捉えた目指す姿を実現するための基本計画と実施計画を作り、進めていきます」ではないか。</p> <p><b>P 2：基本構想：</b>            まず、タイトルの「総論」がわかりにくい。総論→「現状あるいは背景*どちらか（呉市が抱える問題）」と変更して、新型コロナ問題や日本製鉄の閉鎖問題なども交えて説明、ここから「将来都市像」を設定し、それを実現するために9つの分野での視点で目指す姿を提示する、という流れでは。            「将来都市像」は、一例として「みんなが安心して（安全に）イキイキ・ワクワクと暮らす豊かさ溢れるまち：呉」とし、ワンフレーズのイメージを挙げてはどうか（市長が提唱されているくれワンダーランド構想にも合う）。</p> <p><b>P 3：基本計画：</b>            基本計画、基本政策、基本施策といかにも同じようわかりにくい。ここは、基本計画→実施計画（構成事業（案）を含む）とし、基本計画の中で先の9つの分野の視点から目指す姿を提示する。その姿を具体的に実現するために実施計画を策定する、こういった流れではないか。            また、イラストですが、横断的な視点が縦に書かれており、これでは縦断的にみえる。そこで、9つの分野を横串しするような矢印を書くべきではないか。            また、次期基本計画の9つの分野と次期構成事業（案）の分野の順が異なるのでそろえるべき。</p> <p><b>基本構想のイラスト化</b>            基本構想を市民にわかってもらうため、文と一緒にイラストをふんだんに取り入れ、わかりやすい、親しみやすいものにする。</p>
2	<p><b>意見</b>            コロナ、日新の問題を抜きにしては語れない。十分な議論が必要だ。特に「新しい日常」の在り方、感染症対策などが市の施策をどう変えていくのか。拙速でない検討を望む。</p>
3	<p><b>意見（産業分野）</b>            産業、特に観光業に関しては、新型コロナの影響により観光客が激減し、多くのビジネスが打撃を受けている。観光に関わるビジネスの回復を図ることは重要であると考え、（日本全体として）これまでのインバウンド中心の政策から、観光客の多様性を求める視点が必要となってくる。極端に言えば、今後はインバウンド観光に頼らず、観光業を回復&amp;持続させる方法も模索する必要があるかもしれない。</p>

参考資料 1

番号	意見・提案
4	<p><b>意見（全分野）</b>            今回のコロナウイルスは、東日本大震災と同様に、私たちを含め価値観の世界的な変化をもたらすのではないかと。こうした変化を見極めて、それに対応する構想とすることが必要である。</p> <p><b>意見（全分野）</b>            「将来都市像」は、全体を通しての「目指すべき姿」とし、キャッチフレーズに止まらず、しっかり検討し書き込むことが重要である。</p> <p><b>意見（産業分野）</b>            産業分野の一つである観光を今後成長する大きな産業として捉えることが重要であると思うが、そうであれば、産業分野の目指すべき姿の中に、観光についてある程度のボリュームを割くことが不可欠である。すなわち、観光が産業化していると言うだけでなく、それはこうした状態になっていることだと分かりやすく書き込むことが必要である。書き込むとすれば、「リピートしている」と「市民全体のおもてなしを感じる」ということが軸になると考える。</p> <p><b>意見（全分野）</b>            まず重要なのは、目指すべき姿を関係者・市民全体で共有することである。そのためには、それぞれの分野におけるカスタマーの立場で考え表現することが（共感にとって）効果的であると思う。</p>
5	<p><b>意見（全分野）</b>            外国人住民への対応についてほとんど言及されていないように感じる。グローバル化が進む中で、呉市においても外国人住民の増加は必然で、2019年3月における外国人住民は3,216名で呉市の人口の1.5%であるが、近年100-200名/年程度の割合で増加しており、今後も増加が見込まれる。しかし、外国人住民が災害時などに適切な情報を必要な時に得ることが出来る仕組みがなければ、命を落とす危険性すらある。2030年の達成が目標とされているSDGs（2015年に設定）においても、「3. 全ての人に健康と福祉を」、「10. 人や国の不平等をなくそう」という目標が掲げられており、外国人住民への対応についての言及は欠かせないと考える。また、第5次総合計画は2021-2030年の目標であり、SDGsと目標年が一致するため、この計画の振り返りの際には必ずSDGsの目標との関連性を説明する必要があると予想されるため、これについても言及しておく必要があると考える。</p> <p>また、呉市の一番の課題は人口減少だと考えられるが、地元への就職だけでなく、UターンやIターンも重要である。外からの呉市を見て、その可能性に気づき、新しい価値を作り出せる人が増えるのも重要なことだと思う。そういった視点での施策や長い目で評価することも必要だと考える。</p>
6	<p><b>意見（全分野）</b>            情報インフラの技術発展はすさまじく、例えば近い将来、車の自動運転や遠隔医療が普通になっているかもしれない。全ての分野において、そういった変革もあり得るということを踏まえて、計画を考える必要がある。</p> <p>まさにこの記入例にあるとおり、「情報通信格差解消のための光通信回線の整備」事業にもっと力を入れる方が良いと考える。「企業立地の推進」は特定の企業に限られるが、前者による恩恵は想像を超えて広い分野や階層に活躍の場を与えられることになるのではないかと。</p>

番号	意見・提案
7	<p><b>意見（子育て分野）</b>  ○子育て分野の位置づけについて  2065年には、呉市の人口が現在の半分以上にまで減少するという国立社会保障・人口問題研究所の予測をふまえ（資料4，2頁），次期計画期間にかかる10年先の人口は当然のこと，その先の人口規模に目を向けていく必要がある。  この点において，「目指すべき姿」では，「子育て分野」が「文化スポーツ分野」よりも後ろに置かれているところ（順番にはさほど意図がないかもしれませんが），呉市民意識調査の結果，「人口減少を抑えるために必要な取組」（資料6，4頁）に関し，20代30代の意見をふまえ，「子育て分野」をもう少し上位に，あるいは前面に打ち出すことが望ましいのではないのでしょうか。</p> <p><b>意見（行政経営分野）</b>  ○行政サービスの拡充に舵を切るべき  呉市職員体制再構築計画に基づき，正規職員数の削減や年齢構成の平準化，計画的な採用に取り組んでこられたところ，当面の産業の衰退，市税減収にあって，一方で行政需要が高まることも考えられる。市職員の適正配置に加え，サービスの拡充に対応できる体制についても検討しておくべきではないか。</p>
8	<p><b>意見（産業分野他）</b>  産業振興において，呉市のものづくりの歴史や基盤を踏まえつつも，今後の産業構造の変化やアフターコロナを見据えた将来の変化に対応した新しい産業の創出など，次世代の若者や女性によりまちの元気を取り戻せるよう，市民，企業にとって夢の持てる計画とする必要がある。</p>
9	<p><b>意見（全分野）</b>  呉市としての産業などの個性・独自性は伸ばしていきつつ，広島都市圏を構成する都市として，呉市を含めた広島市の周辺都市との適切な競争と役割分担を比較・分析し，呉市のポジションや発展可能性の高い領域を十分議論しておきたい。</p> <p>高齢化率が高いことを逆手に取り，健康に生活できるまちづくりを検討しても良い。この「健康に生活できるまちづくり」は，福祉施設を充実させるのではなく，予防介護の概念に近く，健康に，外出頻度を増やし，QoL（生活の質）を高めていくようなアプローチである。ここにMaaSなど，新しい情報ビジネス・交通ビジネスを発展させられると良い。呉市の都市規模で，日本全体をリードするぐらいに。</p>
10	<p><b>意見（全分野）</b>  第4次呉市長期総合計画では目指していた方向の成果と数値目標との関連がわかりにくかったものがあり，第5次ではKPIの設定を熟慮する必要があると思います。項目によっては統計データなどの数値目標が設定しにくい場合もあるかと思いますが，市民からのフィードを呉市ホームページでのアンケートなどで調べる等の手法も導入した方がいいと思います。また，すでに90%近い割合に達成しているものを1～2%押し上げるには多大な労力を必要とする事が多いので，そのような場合は視点を変えて問題解決型の目標設定（満点からマイナスになっている要素を減らす）などに変えた方がいいと思います。</p> <p>計画の構成を変更することに関しては，もう少し中身が出来上がって見ながらでないとコメントしにくいですが，現時点では特に気になる点はありません。なお，市民だけでなく推進側の市職員が常に計画を意識し，現状を把握し，行動を振り返ることができるよう，文書として残すだけでなく，検索やクロスリファレンスができるホームページへの掲載とタイムリーな情報更新も是非行っていただきたい。</p>

番号	意見・提案
11	<p><b>意見</b> 最近想定を超える災禍が起こっているが、万が一のことも考え、そのような危機管理の構成事業も入れていったらよいと思う。</p>
12	<p><b>意見</b> 商工，土木，都市計画にも関係してくることかとは思いますが，市民にとって魅力ある生活環境の整備の中に，堺川沿いの蔵本公園や中央地区商店街の歩道空間などの公共空間を，現行の条例をはじめPark-PFIなどをうまく活用し，官民が連携したにぎわいや憩いの創出につなげるべきだと考えている。特に蔵本公園は素晴らしい空間にも関わらず，にぎわいや憩いがとても少なく，勿体無く感じている。</p>
13	<p><b>意見（都市整備分野など）</b> 「公・民・学」が連携する，まちづくりプラットフォームとしての「アーバンデザインセンター」は，今後の呉の様々なまちづくりを進める上で有効と思いました。多様な人々が関わるこのセンターについて，ある程度，具体化したイメージ（関わる人々，行うこと等）が「目指すべき姿」のひとつになると良いと感じます。</p> <p>まちなかの賑わい創出のためには，例えば公共空間利活用（道路空間や公園）やリノベーションまちづくりなど，複数の取り組みが一体となったまちづくりが必要と思います。賑わい創出にむけて，複数の取り組みを組み合わせた，まちなかのビジョンが「目指すべき姿」のひとつになると良いと感じます。</p> <p><b>意見（環境分野）</b> 地球温暖化が進む中，温暖化適応のためのまちづくりが必要と考えられます。そのため，緑地，日陰，風の道を活用したクールシティづくりが，「目指すべき姿」のひとつになると良いと感じます。</p>
14	<p><b>意見（全分野）</b> 総合計画は「市政の長期的かつ総合的な運営の指針」となるものですので，全市レベルの方向性を示すものであると理解しています。しかし，呉市の実情をふまえると，中心部と島嶼部では地域特性や社会資源の整備状況が大きく異なり，またそこに起こる生活問題も異なる特徴がみられます。 中心部及び島嶼部における生活問題をどのように解決するのか，また社会資源の整備に関する地域間格差をどのように解消していくのか，それぞれについてより具体的な方向性を示す必要があると考えます。</p> <p>「第4次総合計画」では，「将来都市像」を実現するための基本的な理念・考え方が示されていません。 呉市において，市民が積極的に参画する市政を目指していくのであれば，「第5次総合計画」では，基本的な理念を示すべきかと考えます。その際には，市民の目線から，市民が理解しやすい表現で示す必要があると考えます。</p> <p>「基本構想（イメージ図）」の「目指すべき姿」の区分については，「9つの政策分野」をもとに分けられています。 呉市において，市民が積極的に参画する市政を目指していくのであれば，つまり「目指すべき姿」を実現する主たる主体が市民であるとすれば，市民の目線に立って「市民が目指したい生活のあり方」や「市民が参加したい活動分野」などをもとに区分することができるのではないかと考えます。</p>

番号	意見・提案
15	<p><b>意見（全分野）</b></p> <p>○全体的に中小・小規模企業との連携が弱いのではないかと考えます。一昨年の災害や、この度の新型コロナウイルスの問題に対して、地場の中小・小規模企業が市や地域と連携して活動することによって、もう少し良いまちづくりができるのではないのでしょうか。</p> <p>○呉市中小企業・小規模企業振興基本条例には、「中小企業者及び小規模企業者の努力」として、地域社会との調和を図ることにより、その一員としての社会的責任を自覚するとともに、暮らしやすい地域社会の実現に貢献するよう努めるものとする、とあります。</p> <p>○地域協働によるまちづくりに、積極的にその地域の企業に参加するよう働きかけ、日頃から企業とその周辺の町内会を中心とした市民との関係を構築しておけば、市民が気兼ねをする事なく、空き地や倉庫のある企業を災害時の避難場所として利用できます。</p> <p>○災害時の断水問題など、市から各企業へ井戸を掘る様に働きかけても良いと考えます。</p> <p>○この度の新型コロナウイルスの問題も、企業の存続には社員のみならず、その家族・親戚の健康にも対応する必要が求められました。備蓄等を市から呼びかけて情報を得ておき、余った物を災害時には地域へ提供してもらう働きかけも必要かと考えます。</p> <p>○また、教育の一環として、小中学生へのインターンシップも積極的に受け入れる様に働きかけ、小さい時からものづくりや、観光業への夢を通して、地域への愛着を持たせることが必要と考えます。</p> <p>○日本製鉄の例を見たとき、その雇用や税収の減少に大きな衝撃がありますが、呉市の歴史を考えた時、それらを支えてきた中小企業の技術力と、企業間の連携が失われる事も大きな損失と考えます。 東京の大企業に対しては、呉の産品を百貨店のバイヤーにアピールする取り組みと同様に、呉がものづくりをする上で他の地域より優れている点を紹介する取り組みが必要と考えます。</p> <p>○環境保護に対する取り組みをもっと企業や市民が積極的に参加できるよう、働きかけるべきだと考えます。 例えば、グリーンカーテンへの取り組み・ISO14001取得など、取り組みやすい活動は、市政だより・HP・FB等に載せて、参加の和を拡げていけばよいですし、先日、試走したバスのSORAは水素ガスを燃料としており、環境に優しい乗り物として、僅かですが全国で走っている街もあります。これらの乗り物は非常に高価ではありますが、導入すれば災害時に非常用電源としての役割も果たすこともできます。</p>
16	<p><b>意見（全分野）</b></p> <p>新型コロナウイルスの影響でテレワークが進み、過密都市から地方への移住が進むのではないかと思います。（おそらく今ほど東京など大都市に住むことが忌避される時代はないのでは？） その際に「呉に暮らしたい」と思ってもらえるような、他の市町村との差別化、呉ならではのメリットの打ち出し、テレワークやリモートワークができるような環境整備を考えれば一歩先んじられるのでは。 コロナを人口流入の追い風にすることもできると思うのです。</p>

番号	意見・提案
17	<p><b>提案（全体）</b>          コロナ対応を経験し、改めて通信インフラの重要性を感じたことから、関連分野について通信環境の高度化・充実化が必要であり基本構想に考慮する必要がある。</p> <p><b>意見（産業分野）</b>          「総論 市政を取り巻く環境 3地域経済の動向」において、地元有力企業の撤退報道に接すると、将来的には、呉を支えてきた重厚製造型産業の見直しの必要性に迫られる。          そういった意味から「目指すべき姿 7産業分野」に、その観点や指標がある方が良い。</p> <p><b>提案（市民生活・防災分野）</b>          「目指すべき姿 1市民生活・防災分野」において、今般の体験したことのないコロナ感染を踏まえ、防災・防疫面から「スマートライフ（新しい生活様式）」の観点を盛り込むことが必要である。</p> <p><b>意見（教育分野）</b>          「目指すべき姿 5教育分野」において、呉への関心や郷土愛を育む教育が必要だと考える。特に、いずれ社会人として地元に居住・就業を期待する高校生を対象とする。</p> <p><b>提案（福祉保健分野）</b>          「目指すべき姿 3福祉保健分野」において、健康への関心の高まりや呉市の特色である医療機関の充実状況を踏まえて、滞在型の人間ドックやがん検診が可能な環境を整備し、海外を含めて誘致する。</p> <p><b>提案（都市整備分野）</b>          「目指すべき姿 8都市整備の分野」において、水道・ガス等の生活インフラの更新の必要性が喫緊となる中で、コスト面を考えると今後は狭域生活空間を模索すべきであり、特に商店街の有効活用による「コンパクト・ライフモール」（集中型市民生活環境）を構築していくことが重要である。</p> <p><b>提案（環境分野）</b>          「目指すべき姿 6環境分野」において、世界では2030年までに持続可能な開発目標（SDGs）17項目の達成が求められている。呉市においても目標を設定し挑戦していくことでグローバルな都市を標榜する。</p>